

平成二十年

一、自治体史・地域史

市史では、福井市が市制百周年記念事業として1981年に編纂を始めた福井市史の最終巻『通史編2』が発行され全19巻がそろった。最終巻となった通史編2は、藩祖秀康入封から幕末・維新前夜の激動に至るまで、近世福井の政治と社会、町と村、地域民衆の歩みを叙述した。大野市は山村生活を中心に、衣食住の様式と産業を紹介した『大野市史』の第13巻『民俗編』を発刊した。

地区史としては、坂井市丸岡町高棕地区が、地区の歴史を紹介するパンフレット『高棕歴史散策』（たかむくのまちづくり協議会）を発行。小浜市泊地区は、地区の良さを知ってもらおうと地名の由来、年間行事、地元の方言を掲載した『泊よいとこまつぶ』（泊の歴史を知る会）を作成。三国湊の形成過程、北前船などを題材に、みくに史学研究会の会員10人が執筆した論文11編を掲載した『研究紀要第3号』（坂井市みくに龍翔館）が発行。

福井市立郷土歴史博物館は足羽山公園に開館してから55周年を迎えるにあわせて、収蔵されている歴史資料の中から代表的なものを選びすぐり展示紹介をする「館蔵名品展」、秋には福井藩・越前松平家と江戸との関わりについて紹介する秋季特別展「福井藩と江戸」を開催。

二、各時代史

遺跡調査発掘関係としては、『吉崎御坊跡―国指定史跡保存修理事業報告書―』（あわら市教育委員会）、勝山市が6年間にわたり実施した史跡平泉寺発掘の成果をまとめた『史跡白山平泉寺旧境内発掘調査報告書』などが出版された。発掘資料紹介として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館では、昨年度

に行われた発掘調査で37点もの鋳型が確認され、同一箇所で大量に発見されたのは国内初。そのうち一部を展示した「発掘調査速報展」を開催した。大飯町立郷土史料館で若狭の製塩に関する発掘資料を一堂に集めた特別展「若狭の塩づくり―おおい町発掘50年史」が開催され、製塩土器をはじめ350点を並べ、古代、塩の一大生産地だった若狭の歴史を町の発掘の歩みとともに紹介した。若狭町の三方縄文博物館秋季企画展では「きよしの古墳群展―若狭三方の豪族墓」を開催し、同町の地元豪族の墓である古墳群の副葬品を中心に紹介し往時の社会背景などを紹介。

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は戦国大名朝倉氏に伝わるリーダーとしての心構えを一冊にした調査資料『朝倉氏の家訓』を発刊し、朝倉孝景が子や孫に書き残した「朝倉孝景条々」と朝倉宗滴の「朝倉宗敵話記」の二つの文献中心に構成し現代語訳も掲載した。また朝倉氏の研究の第一人者が半世紀の研究成果を集大成した『越前朝倉氏の研究』（松原信之）を発行

鯖江藩について16年前から学会や研究会誌に発表したものと新稿を加え、鯖江藩の歴史を1冊にまとめた『鯖江藩の成立と展開』（竹内信夫）が自費出版された。越前国七村を支配した旗本、金森左京に関する約25年間の研究を1冊にまとめた（齋藤忠征）

三、各分野団体史

2007年創立百年を迎えた福井県立科学技術高等学校が『百年史』が発行し、同じく百年を迎えた、福井県立三国高校は一世紀にわたる歴史を盛り込んだ百年史と映像で見せる記念DVDを発行した。『福井県高等学校音楽部会のあゆみ―五十周年記念誌―』（福井県高等学校文化連盟）、『鯖江市文化会議四十周年記念誌』（鯖江市文化会議）、小浜市のお水送りで有名な鶴の瀬を校下に持つ小浜市立下根来小学校が134年間の歴史を閉じることとなり『ありがとう下根来小学校―下根来小学校閉校記念誌―』（下根来小学校統合

実行委員会、創立50周年を迎えた日本原電が、福井県の敦賀原発などの設置についても掲載したが記念の社史とDVDを制作、『福井県印刷工業組合半世紀のあゆみ―福井県印刷工業組合・組合創立50周年記念―』（福井県印刷工業組合）などが出された。

四、人物

2008年1月に106歳(教え108歳)で亡くなった大本山永平寺78世貫主の宮崎奕保(えきは)禅師の生涯を追った評伝『座禅すれば善(よ)き人となる 永平寺宮崎奕保善師108歳の生涯』が発行。幕末に活躍した福井藩の偉人橋本左内の没後150年にあわせ、生涯や功績、人柄などをまとめた冊子『橋本左内って知ってるかい?』（福井市立郷土歴史博物館）を発行し福井市内中学校に配布。同じく福井市立郷土歴史博物館で橋本左内と弟綱常佐とのきずなを紹介する夏季特別陳列「橋本左内と弟綱常」を開催し、左内直筆の啓発録原本や初公開の肖像画を展示した。秋には、松平春嶽生誕180年を記念して、政治家・文人・学者として幅広く親交を結んだ春嶽の福井藩外における人脈を、豊富な原本史料で紹介する特別陳列「松平春嶽をめぐる人々」を開催した。鯖江市は鯖江藩7代藩主間部詮勝公の老中就任150周年を記念し、鯖江市資料館の遺墨展をはじめとして、講演など記念事業を行った。幕末の歌人で、鯖江市の真宗山元派本山・證誠寺の第20世法主東溟上人の和歌や史料をまとめた『東溟上人の研究』（嶺山秀明）が発行。幕末期に仏典研究で活躍した真宗大谷派の僧侶・上野丹山の史資料を集めた企画展が開催され図録『丹山―幕末を生きた学僧―』（越前町織田文化歴史館）が出版。勝山藩最後の藩主、第8代小笠原長守（ながもり）の漢詩集『團欒餘興』を東京で発見、内容を解説した研究論文『團欒餘興研究』（前川幸雄）を發表。

若狭町歴史文化館では、地域の農民に仏教や儒教を教え、若狭の賢人といわ

れた、乾長昭の遺品や書を集めた企画展が開催。

五、民俗・文化財

美浜町と若狭町の旧三方町地域に伝わる民話をまとめた『若狭路の民話 福井県三方郡編』（若狭路文化研究会）、美浜町の歴史や言い伝えを記したシリーズ本『ふるさとの歴史と民俗』（美浜文化双書刊行会）、美浜町に伝わるわらべうた約80曲を楽譜に起こした『若狭美浜のわらべうた歳時記』（田辺修一郎）など同地区で盛んに研究された。勝山市の県指定無形民俗文化財「勝山左義長まつり」のお囃子を紹介するDVDが初めて制作された。足羽川ダム建設で移転する集落の思い出を残そうと、地域の年中行事や暮らしぶりを紹介した『ダムでも消えぬ―人生の記憶集―』（江端龍男）を発刊。

文化審議会は旧市街地西部に当たり、町屋や茶屋、寺院など、近世城下町のたたずまいを色濃く残す地域として、小浜市小浜西組地区を伝統的建造物群保存地区に選定した。

小浜市は市無形民俗文化財「西津七年祭」と「山人講行事」の2件を新たに指定し、市指定の文化財は101件、国と県の指定を合わせた総数は226件となり県内最多となり、敦賀市は気比神宮の歴史を記した「気比宮社記」を敦賀市指定文化財に指定した。9巻からなる敦賀のまちの形成や変遷と密接な関係があった気比神宮の有り様がわかる貴重な資料。敦賀市指定文化財は計145件、市内の国、県、市指定文化財の総計は188件となる。

六、自然・工業・産業

福井県内の名木や名花を写真や概要、見どころなどで紹介した『ふくいの名木・名花―ふるさとが誇れる木、花を訪ねて』（福井県）を発行。ホームページでも紹介

福井に残る古民家の保存に役立てるため、伝統的民家の特徴や耐震性能、

改修事例がカラーで紹介した『福井の伝統民家 改修・保全マニュアル』（福井県）を作成。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館では、夏には企画展『和』の空間く中世の座敷と技術』を開催し、武家屋敷の建築部材や室内装飾品などの遺物101点を展示、若狭町三方縄文博物館は夏季企画展として「水と生きた数千年―飲み水から水害まで」を開催し、水と人との深いかかわりを紹介した。

七、芸術・文学

福井県の美術教育に尽力した故水木育夫の功績をまとめた『水木育夫（奥右衛門）と児童画―こころのかよいと子どもの絵―』（現代芸術研究会）が発刊。桃山時代から江戸時代にかけて、敦賀に住みタカを専門に描いた初代、二代の絵師、橋本長兵衛の企画展「幻の敦賀鷹絵師・橋本長兵衛」（敦賀市立博物館）が25年ぶりに開かれ、図録も出版された。

県内にある江戸、明治、大正時代に建立された百を超える句碑を調査・解説した『若狭句碑物語』（斉藤耕子）が発行。越前国府で一時期を過ごした紫式部の代表作「源氏物語」が記録上確認されてから千年となる「源氏物語千年紀」として関連イベントを開催した。越前市の武生公会堂記念館の特別展「渡辺玉花源氏物語五十四帖」や宮中の年中行事などを紹介する「京みやこの息吹き」を開催、曲水の宴などのイベントも催された。福井市橋曙覧記念文学館で天然痘予防の「種痘」普及に尽くした福井市の医師笠原白翁を、故吉村昭の小説とともに紹介する「吉村昭『雪の花』く笠原白翁と種痘」が開催された。

なお、個人史、逐次刊行物等の資料は割愛した。